

「新しく始める第一歩として」

南信州ゆうき人の会 平沢 沙峰

1. はじめに

少子高齢化での担い手不足の問題が加速する中、私は長野県の中山間地域に今年の1月から遊休農地を借り、畑と田んぼの再生活動を行っています。

それまでは農業と無縁だったのですが、コロナ禍をきっかけに農業に興味を持つようになったのと同時に危機感を持ち、若い世代がもっと農業に関心を持たなければいけないと思うようになりました。

2. 受講のきっかけ

いざ農業を始めようと思っても今までやってきた知識も経験も少ない中、声をかけていただいたのが「南信州ゆうき人（びと）」でした。ゆうき人は、生産者さんが地域の農業や有機農業について学んだり、消費者と交流したりする場所として活動をしている会です。ご縁がありそこで学ばせていただく中で、土壤医検定という試験があることを知り、知識をつけたいと思い受験することを決めました。

3. 試験勉強について

土壤医検定を受けることを決めたのが11月中旬、試験は2月。2カ月と少しの期間の中でどうやって勉強するか悩みました。テキストを開いても馴染みのない用語ばかりでとても不安でした。まずはテキストをすべて読み、過去問題集から出ている内容で重要そうなところをマーキング。テキストが終わったら、過去問題集を解き、できなかった問題を中心に繰り返し問題を解きました。また、ゆうき人のメンバーの方が勉強会を開いてくださり、そこで苦手なところや質問ができたことによって、文字だけでは分からなかったことが理解でき、頭に入ってきたことが大きかったです。

4. 今後について

無事に土壤医検定3級を合格することができました。土壤医の勉強をしたお陰で以前に比べて生産者さんの会話の内容が分かるようになり、その課題がより身近なものと感じられるようになりました。

一括りに土と言っても地域や場所によってかなり差があることを知り、実際自分のと

ころ以外の圃場を見学させてもらってその土の違いに驚きました。土ごとにどう対応していくのか、今回勉強した知識や、これから実践する中で試行錯誤していきながら、土と作物と向き合って行きたいと思います。



写真：補植を行う筆者

写真：初めての種粃からの育苗